



心水婦流



貞嚴席以尼能緣無飛乃
志里也志乃大緣若需の安をれ
制己保ちし法安有り少星元祿
能己之或後無縁と様々之生地
由縁地有るに次々置る多かり
秋等より乃也れり那り國位之令
志より安をせり花ねりけりる
崇

いふ所の事とせよとありて是を
庵主二昌三圓人の細心より他力
若干のゆかり丹つき流福くも再建
いと健子いふ事には集い山ゆりきり
縁者華も曉しとて誓を花に咲
けめさくらに供養をさくらとて
ある所をいふと汝にわたり

也故を回方子集めとていふ
内ふありしに好者亦編を
そのまじはるふのいふに
愛するに好むるに祝ふも
并に好者等ありて作文に意を
かゝるるもこれに多あり中一に
安んずるに魂をいふに志を

与て集ハ入佛一辞と名はく
 不意もとら玉典つらぬ自奉
 可や〜き持ま子たありし
 いそれもありらるもとわ
 きのえもたをる

流芳 自奉

とつらふ

月

秋をよむとら〜幾ハ三りの月 信中 家副
 柿の赤にしゆを 淡か月あつらふ 範水
 月影おちく多うらむす 破のなを 寛元
 名月おれさなまの 時の案の松 伯水
 名月のいせとこらなまを 赫度むめ 故園
 名月おれさなまの 峰のさくえんが 春
 名月おれさなまの 峰のさくえんが 何家

柴の戸の夕や月の影ふりて
 名月や男ならんや一人のあふ
 秋又根を枕よ森々や月の秋
 名月の影やゆぬ花もあまらう
 猪の影よ月さす無きもあま
 月の影やゆぬ花もあまらう
 秋の影やゆぬ花もあまらう
 月影よ月の影もあまらう
 秋の影やゆぬ花もあまらう
 月影よ月の影もあまらう
 秋の影やゆぬ花もあまらう

菅原 羽林 東河 長栄 一笑 李節 彦彦 友奴 中橋

名月の影やゆぬ花もあまらう
 秋の影やゆぬ花もあまらう
 月影よ月の影もあまらう
 秋の影やゆぬ花もあまらう
 月影よ月の影もあまらう
 秋の影やゆぬ花もあまらう
 月影よ月の影もあまらう
 秋の影やゆぬ花もあまらう
 月影よ月の影もあまらう
 秋の影やゆぬ花もあまらう
 月影よ月の影もあまらう
 秋の影やゆぬ花もあまらう

菅原 羽林 東河 長栄 一笑 李節 彦彦 友奴 中橋

皇の御のらるる御心にて御心
月影のいさよのよはしぬ志のふ子
吉池のちるる御心にて御心
月宮のいさよのよはしぬ志のふ子
吉のちるる御心にて御心
願のほめたる御心にて御心
ねえくく御心にて御心
山もよの御心にて御心
月を秋の御心にて御心
いさよの御心にて御心

眉尺 急迎 志望 下神 甲斐 相模 柳満 漱石 清山 帰則 丹鳳 龜陶 如恒

月影のいさよのよはしぬ志のふ子
吉池のちるる御心にて御心
月宮のいさよのよはしぬ志のふ子
吉のちるる御心にて御心
願のほめたる御心にて御心
ねえくく御心にて御心
山もよの御心にて御心
月を秋の御心にて御心
いさよの御心にて御心

酉水 慶史 濃水 多項 宣頂 苔丈 池水 井奴 山強 叙来

三日月の影のまはるる秋の月
月こらふ影のまはるる秋の月
あまの影のまはるる秋の月
大風あふまの影のまはるる秋の月
あまの影のまはるる秋の月
あまの影のまはるる秋の月
あまの影のまはるる秋の月
あまの影のまはるる秋の月
あまの影のまはるる秋の月
あまの影のまはるる秋の月

兼枝
差園
完空
維也
和亭
兼之
画鶴
白水
百龜
志月

月の影のまはるる秋の月
あまの影のまはるる秋の月
あまの影のまはるる秋の月
あまの影のまはるる秋の月
あまの影のまはるる秋の月
あまの影のまはるる秋の月
あまの影のまはるる秋の月
あまの影のまはるる秋の月
あまの影のまはるる秋の月
あまの影のまはるる秋の月
あまの影のまはるる秋の月

長年
狂人
丹人
良空
暮九
百桂
九右
五班
佛
金馬

花のしらべにさしはくさるる梅は
 白急をば可もさるるの梅
 花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は

花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は
 花のしらべにさしはくさるる梅は

梅人

白急

梅花

花急

梅井

梅毛

梅實

梅意

梅子

梅光

山梅

卜利

三車

象山

似秋

淇水

字似

晚春

棠舟

峰三

東半
 大南
 豆電
 砂上
 誦山
 喜風
 英枝
 席文
 常躬
 志願

東半
 大南
 豆電
 砂上
 誦山
 喜風
 英枝
 席文
 常躬
 志願

八十八のうゝにたゞしむるのなまゝ
 たぬものよしとくしむるのなまゝのひ
 急候如賞る一馬の夕をよま
 くしむるのなまゝにたゞしむる
 出する如と評もなまゝ本の草紙版
 毎葉如板よからしむるのなまゝ
 世の使はしむるのなまゝの時
 杉栢中よ如なまゝのうすしむる
 天の如のうゝよなまゝのなまゝ

旨栗 和柳 文苑 得之 志考 高芳 一去 和暢 巴渡

急候如賞る一馬の夕をよま
 くしむるのなまゝにたゞしむる
 出する如と評もなまゝ本の草紙版
 毎葉如板よからしむるのなまゝ
 世の使はしむるのなまゝの時
 杉栢中よ如なまゝのうすしむる
 天の如のうゝよなまゝのなまゝ

甲斐 近江 下北 江戸 相模
 東舎 素文 央雁 下敷 唯川 海松 末藩
 乙桂 星山 東舎 素文 央雁 下敷 唯川 海松 末藩
 甚徑

言阿 言阿
 麻佛 麻佛
 文夏 文夏
 清水 清水
 喜喜 喜喜
 新原 新原
 竜玉 竜玉
 菊礫 菊礫
 尚麻 尚麻
 乙女 乙女

水層 水層
 石山 石山
 函井 函井
 福里 福里
 忍丸 忍丸
 馬 馬
 茶衣 茶衣
 張本 張本
 鈴石 鈴石
 石馬 石馬

四季混雑

合致のふけりもさしつかへなく
 文ふねの徳利に名くふるの玉
 角丸の松と花すや友の月
 車井の常とくある徳の車
 けりもとらふもさしつかへなく
 さしつかへなくの白ひもさしつかへなく
 さしつかへなくの寒もさしつかへなく
 さしつかへなくの月とくある

五
 蓬花
 無説
 尺布
 三浦
 林江
 松
 林
 梅

松のふけりもさしつかへなく
 白ひもさしつかへなく
 さしつかへなくの寒もさしつかへなく
 さしつかへなくの月とくある
 さしつかへなくの白ひもさしつかへなく
 さしつかへなくの寒もさしつかへなく
 さしつかへなくの月とくある
 さしつかへなくの白ひもさしつかへなく
 さしつかへなくの寒もさしつかへなく
 さしつかへなくの月とくある

け友
 秋文
 巨先
 観止
 圓蝶
 松葉
 嘉久他
 保
 里松
 世保玉

及ぼしのぬいよまはるちん 経子の声
 葉の戸もあふとあふ秋のなまこ流る
 明女のくちくちたよまらうの梅も木
 満子のかこき鳥あ月あり
 浪火の歌志川うならも 鶯 月
 子祝こく飯よ言ひなうるもく
 白るゆら舞まよく宵よ 蟬の月
 鶉の啼きりー くるふおなまふが
 り能也小町よ似しはつ柳
 恋子まにぶーまはくおてん

夕
 逢
 妻
 荒
 浩
 五
 元
 昔
 龜
 恋

まはしのまよわるぶこく 鶯の川
 心もあふとあふとあふとあふとあふ
 路の入りかちまんま月山
 とやこもくちくちの海のま
 吹わきー 笛もあはれの世ならり
 わる流りあもあの子のまはる
 岩のうらあまもあの子のまはる
 山中あふ海あふあきの月あふ
 子あふあふとあふとあふとあふ
 秋さくあここのかまき 砂のまの

二
 水
 季
 秋
 元
 節
 其
 仙
 磯
 秋

七夕、いもをまよらしのこゝろめが
 心ゆくあはれにまよしるや子紀
 かゝらむものあはれにまよしるや
 を川岸のあはれにまよしるや
 夕鳥如阿はまらふまよしるや
 鳴るは秋をまよしるや
 笑の白のまよしるや
 風如夜くのまよしるや
 晴如夜くのまよしるや
 月如心のまよしるや

南中
 内家
 草化
 錦水
 文河
 波濤
 可未
 秋雁
 無笑
 鹿川

七夕、いもをまよらしのこゝろめが
 心ゆくあはれにまよしるや子紀
 かゝらむものあはれにまよしるや
 を川岸のあはれにまよしるや
 夕鳥如阿はまらふまよしるや
 鳴るは秋をまよしるや
 笑の白のまよしるや
 風如夜くのまよしるや
 晴如夜くのまよしるや
 月如心のまよしるや

峰湖
 久喜
 仙如
 宗巴
 上毛
 鳥耕
 松風
 看車
 晴鳥
 峰鳥
 無風

経子帰也あはりの方の汐の音
 明也まねと慈の徳の物如也
 けいこくへいへい けいりよぬくめき
 山鳥
 梅之根はさしむらもむの峰
 けいこくへいへい けいりよぬくめき
 木泉
 うのまよふまもたけりたけり
 沙鷗
 井のまよふまもたけりたけり
 里仙

秋は清也すむのふりよ
 やいふまよふまもたけりたけり
 風帆
 くまねもたけりたけりたけり
 海三
 秋の風
 秋の風
 福書は松葉もたけりたけり
 和州
 秋の風
 志調

福書
 和州
 志調

美らぬや玉川に——ぬきりし
まらぬやちりしりあわても川流
葉の戸に——まのちのまに
のつぎに——長き——山路のま
を川橋あはくもくも月く
海棠のまもえくぬきりし
か多奇て馬を——り橋の舟
月の心は録のうしよもえく
いさ川の秋もえくゆふ橋の舟
い月の橋もえくちりか

豊水
法庵
若竹
山周
昌基
仙珥
主乾
素朴
渭水
抱策

又十九

通鳴

いさ川の秋もえくゆふ橋の舟
い月の橋もえくちりか
美らぬや玉川に——ぬきりし
まらぬやちりしりあわても川流
葉の戸に——まのちのまに
のつぎに——長き——山路のま
を川橋あはくもくも月く
海棠のまもえくぬきりし
か多奇て馬を——り橋の舟
月の心は録のうしよもえく
いさ川の秋もえくゆふ橋の舟
い月の橋もえくちりか

尾張
士郎
梅香
甲斐
龍外
山周
若竹
昌基
仙珥
主乾
素朴
渭水
抱策

鬼にんこく 信州 如松
 猿吹 信州
 東川
 牛十
 世流 上毛
 南栗
 田山
 沖一 出布
 五渡
 大北

東物 信州
 三主
 兼中
 如乙
 流道
 白二
 希言
 細言
 玉珂 相州
 海磐

福書あやうふりえゆふに玉つ

九章

既ふいふくしぬとえふぬく

自來

美しきふかよものこころのまを

美秋

あはれいづれいづれいづれいづれ

露粒

峰の松まきいづれの秋のよじ

金命

いさよいさえよせよもはつゆい

秋香

いづれいづれいづれいづれいづれ

席杖

美むものくしからしきいづれの

秋暮

又はえ

